



中国の台頭と東アジアの民主主義国への影響

Der Aufstieg Chinas und was er für die Demokratien in Ostasien bedeutet

2023年3月30日（木）
18時30分～20時（18時開場）

中国の台頭による、東アジアの民主主義諸国への脅威は、年々、強まってきています。とりわけ、台湾の領土権をめぐる問題は、東シナ海、南シナ海などの領土・海域紛争をはじめ、中国の民主主義に対する数々の挑発を顕著に表しています。

台湾のみならず、日本や韓国も、中国が北朝鮮の支援を後ろ盾に築き上げている政治的・軍事的圧力に危機感を示しています。日韓の両国はすでに軍事防衛費を大幅に増額させ、米国との軍事同盟を強化する計画を発表しました。

中国は今後、圧倒的な経済力・軍事力を駆使し、東アジアとのさらなる戦略的交渉を試みるでしょう。中国の影響力拡大に対し東アジアの民主主義諸国がどのような対応を迫られているのか。また、東アジア地域全体の今後の地政学的な課題とは何か。本講演では、このような問題について、ゲルラッハ博士が日本とドイツ双方の観点を交えた独自の見解を紹介します。

記

日時： 2023年3月30日（木）
午後18時30分～20時（18時開場）

場所： ゲーテ・インスティトゥート東京、ホール
（〒107-0052 東京都港区赤坂 7-5-56）

言語： 日本語-ドイツ語（同時通訳）

主催： フリードリヒ・エーベルト財団（FES）
ゲーテ・インスティトゥート東京（Goethe-Institut Tokyo）

プログラム

- 18:00 開場
- 18:30 ご挨拶
スヴェン・サーラ (Sven Saaler)
(フリードリヒ・エーベルト財団東京事務所 代表)
- 18:40 講演会
アレクサンダー・マティアス・ゲルラッハ博士
(Dr. Alexander Mathias Görlach)
- 19:40 Q&A
- 20:00 閉会

アレクサンダー・マティアス・ゲルラッハ博士

ニューヨーク大学哲学科・客員教授。ジャーナリスト。
マインツ大学にて言語学、ミュンヘン大学にて比較宗教学を専攻し、博士号を取得。ハーバード大学、ケンブリッジ大学などを経て 2022 年 8 月より現職。専門研究分野として、自由民主主義、社会的包括、またこれらの分野におけるメディアの役割、などがある。台湾と香港での長年の滞在経験より、特にこれらの地域に注目した研究を多く発表している。